

## 「カーボンニュートラル」における 検査・計測・制御技術への期待

株式会社 IHI  
常務執行役員  
資源・エネルギー・環境事業領域長

武田 孝治  
Takeda Koji



IIC の皆さん、日頃より IHI 資源・エネルギー・環境事業領域（以降、エネ領域）の事業展開に多大な貢献をいただき、この場をお借りして感謝申し上げます。ご協力いただいている事業の主なものをあげてみると、ボイラでは耐圧部を中心とする非破壊検査、排ガス計測、原動機ガスタービンでは制御装置・運転監視装置、また LNG 貯蔵タンクでの非破壊検査とまさに多岐にわたっています。

お客さまが IHI のエネルギー関連の製品を選んでもいただく最大の理由は、高度な検査・計測・制御技術に裏付けられた高い信頼性であり、そういった面での IHI と IIC のシナジーは将来にわたり大切なものであると信じています。

近年は世界的な脱炭素の潮流が加速し、日本も 2050 年のカーボンニュートラルを宣言しました。エネ領域もボイラ SBU とプラント SBU を統合し、2021 年度よりカーボンソリューション SBU を発足させ、将来ビジョンを、「創ろう、カーボンニュートラルな未来！」と決めました。主力事業をこれまでの化石燃料に関わるエネルギー製品から、将来のカーボンニュートラルに向けて社会やお客さまが持つ「炭素 = カーボン」に関わる課題へ、ソリューションを提供するビジネスヘスパーディーに変革させていきたいと思っています。

カーボンニュートラルに向けては、国やさまざま

な企業が色々な取り組みを行っているため、「何からどのように取り組めばいいかわからない」という声を聞きますが、「減らす」、「置き換える」、「創る」をキーワードに CO<sub>2</sub> 削減に貢献するソリューションをそれぞれのお客さまのニーズに応じて、最適に提供することが大事だと感じています。

エネ領域では①水素・アンモニアのバリューチェーンの構築、②カーボンリサイクルの提案、に特に注力していきます。アンモニアバリューチェーンの構築では、既に始まっている愛知県碧南市での石炭火力発電所をアンモニア混焼へきなんに改造する工事や、ガスタービンの燃料として天然ガスに加え、アンモニアを混焼することで CO<sub>2</sub> 削減へ貢献していきます。

例えば、アンモニアに関していうと、毒性があり漏洩えいに対する検知システムや漏洩時の散水システムといった今までの石炭火力には無い計測・制御を要求されます。このように脱炭素に向けて、これまで扱ってきた燃料や原料は変化していきますが、『高度な検査・計測・制御技術に裏付けられた高い信頼性』への要求は不変です。今まで以上に IHI と IIC がシナジーを発揮することで、カーボンニュートラルを両社の新たなビジネスチャンスにしていきたいと考えています。